

155

420

川原氏
往診用
檢痰檢尿サツク解

058587-000-9

特24-280

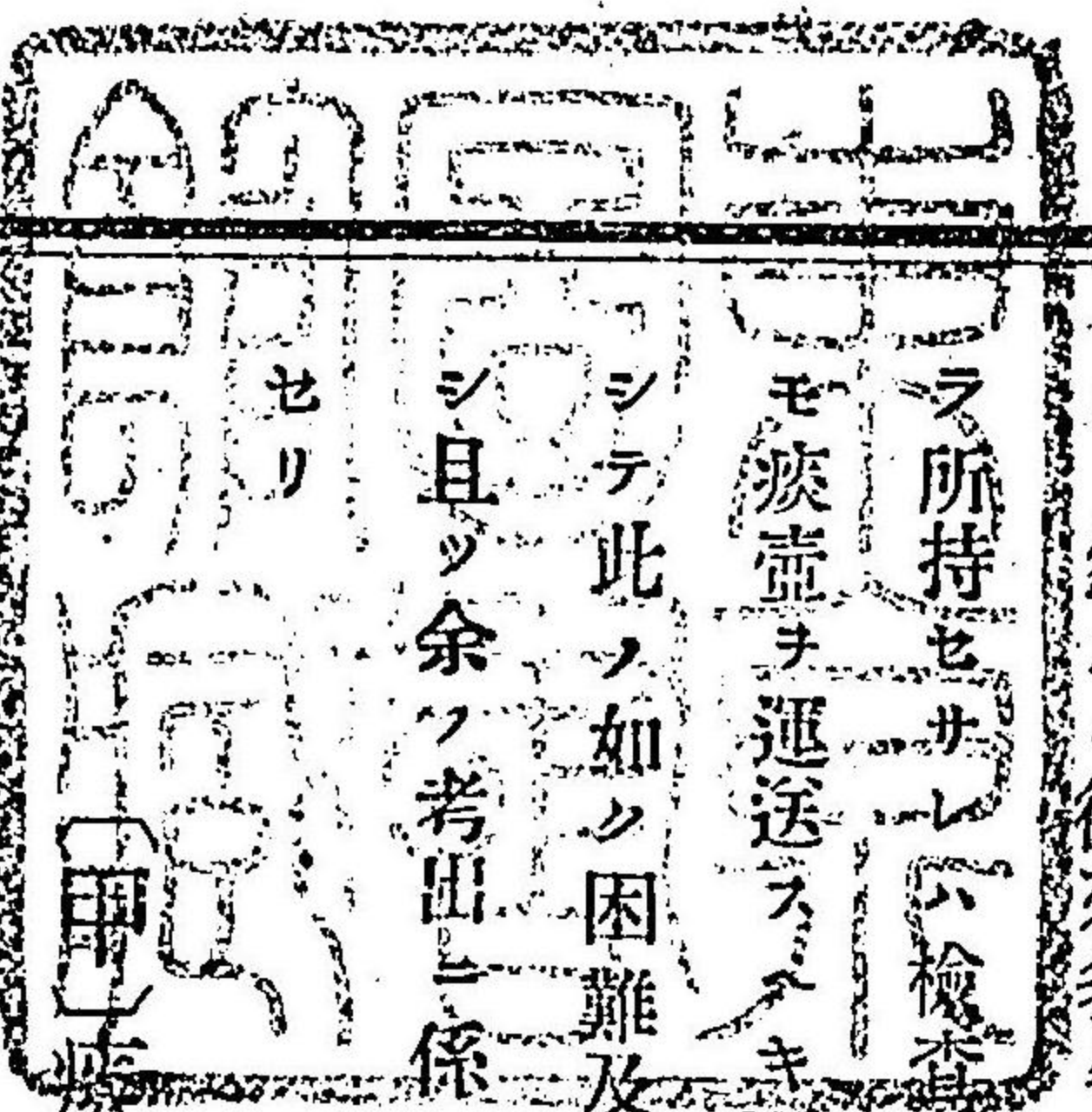
檢痰檢尿サツク解 (川原氏往診用)

川原 汎 / 著

M24

CBC-0107





夫レ痰中結核「バシル、ス」ノ検査ハ診斷上及ヒ豫后制定上ニ必要ニシテ怠ルヘカ
 ラサルヤ論テ俟サルナリ就中古弗氏新治療法ノ發明以來其必要ハ一層ノ熱度ヲ加ヘ
 タリ然ルニ從來多ク之ヲ等閑視シタルハ之ヲ難事業ト誤認シ且ツ一ハ顯微鏡ヲ自カ
 ラ所持セザレバ検査ハ到底實行スヘカラス又タ或ハ他人ニ検査ヲ依托セント欲スル
 モ痰壺ヲ運送スヘキ不便アルトニ專ラ其罪ヲ歸セシムヘキカ如シ然レトモ實際ハ決
 シテ此ノ如ク困難及ヒ不便ナル事業ニアラス故ニ左ニ檢尿法ト共ニ其窺ヲ明白ニ
 シ且ツ余ツ考出ニ係ル攜帶便利檢痰檢尿「サック」ヲ販賣普及セシムヘキノ切迫ヲ感
 セリ

甲 痰中結核バシル、ス検査法

〔一〕淨拭シタル蓋硝子板一箇ヲ取り之ヲ机上ニ置キ〔二〕白金針ヲ以テ痰中可及的膿
 ニ富メル部分ノ帽針頭大ヲ取り〔三〕之ヲ白金針二箇ヲ左右手ニ持チ之カ尖端ヲ以テ

該痰ヲ蓋板面上ニ可及的平等ニ擴張セシメ〔四〕爾后尙一箇ノ蓋板ヲ痰ヲ敷キタル蓋板上ニ伏セ其上ヨリシテ輕ク壓スヘシ然ルトキハ痰ハ蓋板面ニ薄層ヲ成シテ一面ニ蔓延ス〔五〕之レヨリ兩蓋板ヲ注意シテ離別シ而シテ各附着面ヲ上方ニ向テ放置スヘシ然ルトキハ十分時ヲ出スシテ乾燥ス或ハ若シ急ニ乾燥セシメント欲セハ酒精燈或ハ炭火上ニ於テ輕微ニ熱スベシ之ヲ古弗氏ノ乾燥蓋板布列巴刺篤ト云フ〔六〕此乾燥蓋板布列巴刺篤ハ「ガッベット」氏第一液（少許ヲ時辰器硝子蓋ニ取ル製法ハ下ニ出ス）中ニ二乃至五分時間許浸シ然ル后ニ「ピンセット」ヲ以テ攝取シ〔七〕水ヲ以テ能ク洗滌シタル后ニ直ニ同氏第二液中ニ數秒時間入レ置キ〔八〕更ニ之ヲ摘出シテ水ヲ以テ能ク洗滌シタル后ニ酒精燈或ハ炭火上ニ於テ注意シテ乾燥セシム（着色蓋板布列巴刺篤）〔九〕淨拭セル物体板面ノ中央ニ一滴ノ「カナダバルサム」ヲ置キ之ヲ酒精燈或ハ炭火ヲ以テ少シク熱シ然ル后ニ前項ノ乾燥着色蓋板布列巴刺篤ヲ附着面ヲ下ニ向テ「カナダバルサム」中ニ封シ蓋板上ヨリ輕壓ヲ加テ「カナダバルサム」ヲ平等ニ蔓延

セシメ〔十〕増大四百倍以上ノ顯微鏡下ニ照シテ検査スヘシ此際中隔ヲ撤去シ接眼鏡ハ可及的番號ノ小ナル者及ヒ接物鏡ハ可及的大ナル者ヲ以テ検査スルヲ良トス顯微鏡ハ當然油浸裝置ヲ以テ最上トナスト雖トモ乾燥係統ヲ以テモ十分適當ナリトス此法ニ依リ一定度ノ熟練ヲ得ルトキハ殆五分時ヲ費サスシテ痰ノバシル、ス検査ヲ終結シ能フ者トス

ガッベット氏第一液 五%石炭酸水一〇〇、〇無水亞爾固保兒一〇、〇フクシン一、〇
ガッベット氏第二液 二五%稀硫酸一〇〇、〇メチーレンフラウ二、〇

但シ兩液共ニ克ク振盪シテ溶解シ用ニ臨テ必ス漏過スヘシ此目的ノ爲メニ藥瓶ノ栓ノ交ニ小漏斗ニ漏過紙ヲ籍メタル者ヲ附シ置クベシ

カナダバルサム 純品少許ヲ取り之レニ「テルペンチン」或ハ「キシロル」ヲ三分一乃至二分一許加テ混攪溶解セシメ點眼瓶中ニ藏スルヲ佳トス

〔乙〕尿ノ検査

尿ノ検査法ニ種々アリ且ツ其目的モ亦タ甚タ種々ナリト雖トモ蛋白ノ検査ヲ以テ最
 屢要用ナリトス何者浮腫アル患者ニ在テ著明ノ蛋白尿ハ腎臟炎ノ鑑識ヲ決セシムル
 カ故ナリ然ルニ從來最モ多ク採用セラル、處ノ蛋白検査法ハ尿ヲ試験管中ニ取り之
 ナ熱シタル后ニ硝酸ヲ加テ溷濁ノ發生スルヤ否ヤヲ試ルニアリ又タ近時最多ク用ヒ
 ラル、處ノ「ピクリン」酸ヲ以テセル検査法ハ甚タ簡便且ツ至テ鋭敏ナルカ故ニ前法
 ニ勝レリトス即チ「ピクリン」酸水製飽和液ヲ尿中ニ滴入スレハ蛋白アレハ溷濁ヲ生
 ス此際ハ加熱ヲ要セズ

〔丙〕往診用検査法

小ナル白金針二箇物体板若クハ時辰器硝子蓋一箇及ヒ蓋板十ヶ許ヲ携帯スヘシ檢ス
 ヘキ痰ヲ以テ乾燥蓋板布列巴刺篤ヲ製シ之ヲ紙ニ包テ持チ歸リ（此包紙ニハ患者ノ
 姓名検査ノ月日若クハ番號ヲ附記スルヲ便トス就中他人ニ托シテ検査セシムルトキ
 ニ然リトス）而シテ歸宅后隨時ニ着色シテ鏡檢スベシ鏡ヲ所有セサル人ハ着色セサ

ル蓋板布列巴刺篤ヲ最寄ノ病院或ハ總テ此検査ヲ能クスル人ニ送テ検査セシムベシ
 又タ一々送ルコトヲ煩シト思ハ、數箇ヲ集テ一回ニ送置シ検査ヲ依托スルモ佳ナリ

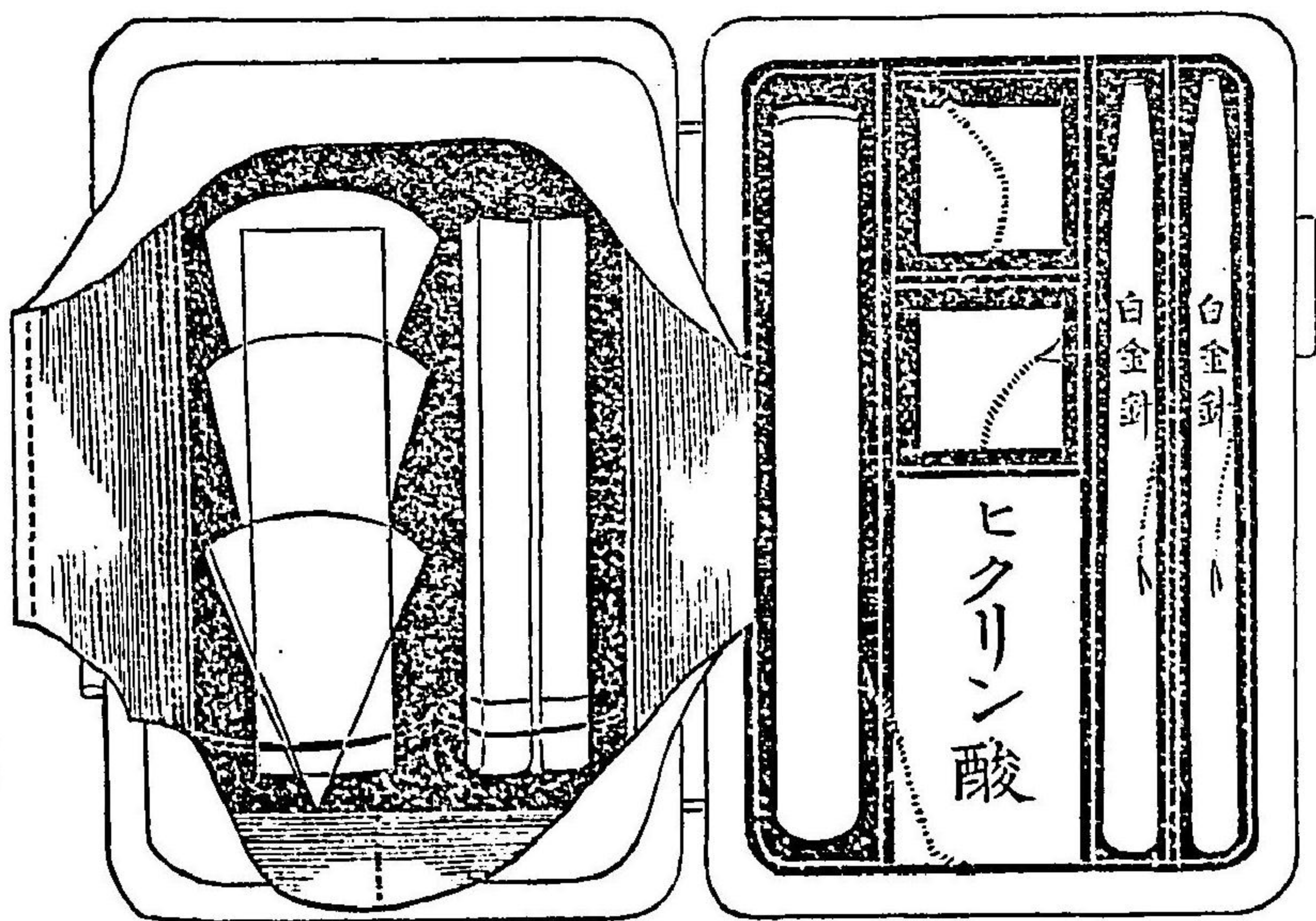
〔丁〕往診用検査法

小試験管二箇ヲ入レ子トシテ携帯シ其小管中ニ常水半分許ヲ充タシ之ニ豫メ準備セ
 ル「ピクリン」酸少許ヲ投シ管口ヲ拇指ヲ以テ閉シテ克ク振盪シ溶解スベシ、（此溶液
 ハ飽和液ナラサルヘカラサルカ故ニ反復振盪シタル后ニモ器底ニ少許ノ結晶ヲ見サ
 ルベカラス）且ツ外方ノ試験管中ニハ尿ヲ取テ而シテ該試薬ヲ注入スヘシ尿ニシテ
 溷濁セルキハ濾過ヲ要スルカ故ニ濾過紙ヲ準備スルヲ良トス蓋シ此ピクリン酸ヲ以
 テセル蛋白反應ハ亞爾加里性尿中ニ於テハ顯著ナラサルコトアリ故ニ豫メ試験紙ヲ
 準備携帯シテ先ツ尿ノ反應ヲ検査スヘシ而シテ若シ尿ニシテ中性或ハ亞爾加里性ナ
 ルカ爲メニ反應ヲ妨害スルコトアラハ少許ノ酸ヲ加フベシ此目的ノ酸ハ何種ナルモ
 妨ケナシ蓋シ食醋、酒石酸ノ如キハ大概病家ニ於テ得ヘキ者ナルコトハ此處ニ注意ス

〔戊〕往診用檢痰檢尿サツク用法

余ノ考出ニ係ル一小「サツク」中ニハ

- | | |
|-------------------|-----|
| 白金針 | 二箇 |
| 試檢管 | 二箇 |
| 物体板 | 一箇 |
| 蓋板 | 數箇 |
| 試檢紙 | 若干 |
| 漏斗形ニ切タル濾過 | 三四箇 |
| 内ニ「ヒクリン」酸ヲ容ル、小函一箇 | |
- 右諸品ノ用法ハ自ラ分明ナリ茲ニ特ニ白金針ヲ用ユルハ針尖ヲ毎回燒灼シテ附着セル「バシル、ス」ヲ燒燼シテ次回ノ檢査ニ於ケル過失ヲ免ル、ノ要アルカ故ナリ



蓋板ヲ納ムヘキ廓ノ隣ニ尙一廓ヲ設クルハ蓋板布列巴刺篤ノ紙包ヲ容ル、ニ供ス蓋板ノ厚キニ過キレハ強増大ノ鏡檢ニ適セサルカ故ニ可及的薄キヲ選ムヘシ

於名古屋

明治二十四年三月

醫學士 川原 汎 識

嗚呼一般ノ事業其奧妙ヲ究ルノ當時就中醫學之發達進步シタル喋々ノ辨ヲ要セス既ニ愛知病院內科醫長醫學士川原先生ハサキニ痰尿檢査ノ必用ナルコトヲ感セラレ心慮ヲ凝シ今回初メテ携帶用サツクヲ撰卓發明セラレタリ然ルニ古今卓絶ナル一大發明ヲナシ世人擧テ十九世紀救世主ト尊ハル、彼ノコツボ氏ノ治療法ニ付テハ該器ノ必用ナル一層ノ熱度ヲ増シタリ而シテ之ヲ供フテ器械之ガ凡不良ヲ選ズンハアルベカラズヤ必セリ弊舖茲ニ感アリ先生ニ請ヒ專ラ精巧ニ製造ヲ注意シ普ク諸大家ノ準備ニ供シ聊カナリトモ世ヲ益スル救世主ノ一分ナリトモ我業務上其本分ヲ盡サント此事ニ從事シ既ニ落成ヲ告ゲタリ實ニ此器タルヤ獨リ檢痰檢尿ニ必要ナルノミナラ

毒物學上顯微鏡の上ニ欠クベカラザル者ニシテ且輕便ニシテ能ク其目的ヲ貫徹ス
ル先生ノ實驗ニ因テ明ナリ乞フ必用ヲ感スル諸彦御購求アラソコトナ

明治二十四年五月十九日印刷

明治二十四年五月二十日出版

發行兼
印刷者

愛知縣名古屋市京町
六十五番戶

馬場重太郎

著述者

愛知縣名古屋市南桑名町
百九十番戶

川原汎

營業 種目

- | | |
|-------|--------|
| 醫療器械 | 調劑用器械 |
| 理化學器械 | 齒科器械 |
| 獸醫器械 | 蠶種檢查器械 |
| 各國藥品 | 玻璃器械 |

